

子育て女性の憩いの場 今年度の「わいわい子育てフリースペース」開設を開始



ミニこいのぼり作りを楽しむ親子

J Aは4月14日、今年度の子育て支援事業「わいわい子育てフリースペース」の開設を始めました。

スペースは、子育て中の女性とその家族を対象に、気軽に集まれる憩いの場として、毎月第2・4金曜日に野田神社「洗心館」(花巻市野田)で開設。第4金曜日は、季節に合わせて工作やおやつ作りを行っています。

4月28日には6組12人が参加。親子で楽しみ協力しながら、折り紙や画用紙でオリジナルのミニこいのぼりを作ったほか、ボランティアグループの会員たちと遊びました。参加者全員でおやつも食べ、交流を更に深めました。

お問い合わせ ☎生活ふれあい課 0198-4511213

明るく豊かな地域社会を 平成29年度集落委員委嘱状交付式



高橋専太郎組合長から委嘱状を受け取る集落委員

J Aは4月、平成29年度集落委員委嘱状交付式を各地域で行いました。

花巻地域154人、北上地域82人、西和賀地域31人、遠野地域100人の集落委員が委嘱状を受け取りました。4地域合わせて367人の集落委員たちは、農家とJ Aの連携をはかり、情報の提供や協同活動の推進、地域農業の発展に積極的に取り組みます。また、集落委員を4年以上務め、平成28年度末で退任された16人の方々に、感謝状と記念品が贈られました。

花巻地域では4月14日、花巻市内のホテルで行われ、任命者一人一人が呼名された後、高橋専太郎組合長から代表者へ委嘱状が手渡されました。

新酒の出来栄え競う

第98回南部杜氏自醸清酒鑑評会

(一社)南部杜氏協会は、4月4日から7日の4日間、花巻市石鳥谷町で新酒の出来栄えを競う「第98回南部杜氏自醸清酒鑑評会」を行いました。

北海道から岡山県まで全国各地142の蔵元から吟醸酒328点、純米吟醸酒245点、純米酒154点、合わせて727点を審査しました。今回は消費者ニーズの変化や海外展開などによって吟醸酒が減り、純米吟醸酒が増えました。6日の第2番では、第1番を通過した吟醸酒183点、純米吟醸酒100点、純米酒62点を仙台国税局や(公財)日本醸造協会などから参加した12人が審査員として味や香り、後味などを審査しました。

県工業技術センターの米倉裕一醸造技術部長は「今年は程よく穏やかな香り、軽やかでしっかりとした味わいで飲みやすい」と評しました。



一点一点、味や香りを確認する審査員

心安らかなお見送りを 花巻葬祭センター通夜会館竣工式



1.テープカットで完成を祝いました 2.玉串を奉奠した高橋組合長 3.完成した通夜会館

J A子会社の(株)J Aグリーンサービス花巻は4月20日、花巻葬祭センター通夜会館(花巻市東町)の完成を祝う竣工式を同会館で行いました。

近年需要が高まっている家族葬などの小規模な葬儀に対応するため、平成28年6月から整備を進め、4月24日から利用者の受け入れを始めました。

通夜会館は花巻葬祭センター黄泉苑から東に約100m離れた地点に建設し、純和風の鉄筋造平屋建てで、床面積は約468㎡。館内は大まかに二つの部屋に区切られ、同時に2組の家族葬の受け入れが可能です。1組あたりのスペースを約70㎡確保し、それぞれに玄関や控室、和室、浴室、寝室などを配置しています。

ています。遺族が自宅と同様に過ごすことができ、また、心安らかにゆつくりと見送りができるよう設備を完備しました。

竣工式には、役員や施工関係者、近隣住民など約70人が参加。宮司が建物全体を祓い清め、関係者が玉串を奉奠する神事を行ったほか、施工関係者への感謝状贈呈、テープカットで施設の完成を祝いました。

高橋専太郎組合長は「地域にあつて良かったと言われる会館の運営をして、地域住民皆様の期待に応えていきたい」と話しました。

利用開始を控えた4月22、23日の両日は内覧会を開いて地域住民に披露し、設備やさまざまなサービスを紹介しました。

花巻葬祭センターでは、年中無休・24時間の電話受付をはじめとする、万全のサービス体制を整えています。

☎0198-2214382

地域ぐるみで支える高齢化社会

認知症サポーター養成講座開催

J Aは3月18日、J A総合営農指導拠点センター(花巻市野田)で、役員約530人を対象に認知症サポーター養成講座を開きました。

花巻市の認知症地域支援推進員を講師に招き、認知症と物忘れの違い、種類や症状などの基礎知識、寸劇を通して介護環境や接し方、ケア方法などを学びました。受講した役員には認知症サポーターの証として「オレンジリング」を贈呈したほか、地域ぐるみで高齢者や認知症の見守りを行うシステム「花巻市SOSネットワーク」への登録を促しました。

高橋専太郎組合長は、「管内の高齢化進展を見越し、地域と密着した事業を進める上で、全役員が共通の認識を持ち、高齢化社会におけるJ Aの運営について意識を高めることが大切だ」と講話しました。



受講した職員が受けた「オレンジリング」